



なないろのかけはし

第3号

令和5年3月22日発行

「令和5年度白石市幼保小接続型 (アプローチ&スタート)カリキュラム」 (暫定版)ができました。

右に示したねらいのもと、各幼保小の運営委員が分担して作成しました。このカリキュラムを実践し、よりよい円滑な接続を目指し、幼保小で話し合っています。



作成のねらい

- ☆育ちや学びの連続性
→育ちや学びは連続しており、幼児教育から学校教育への移行を円滑にする必要があります。
- ☆幼児教育と学校教育の共通理解
→「幼児期の終わりまで育ってほしい姿（10の姿）」を手掛かりに、幼児期から児童期への育ちのつながりを理解することが大切です。また、互いの教育内容や指導方法の違いや共通点を理解することも必要です。
- ☆幼児教育での育ちを生かしながら、学校教育での教科等への学びにつなげる
→学校教育はゼロからのスタートではなく、幼児教育での育ちを生かしながら、教科等の学びにつなぎ、子供たちの資質・能力を伸ばしていきます。そのために、幼児教育と学校教育の接続を見通した教育課程を計画・実施していくことが必要となります。

□ 架け橋期（5歳児～小学校1年生の2年間）幼保小接続イメージ

5歳児4月

3月 1年生4月

3月

アプローチカリキュラム（幼保）

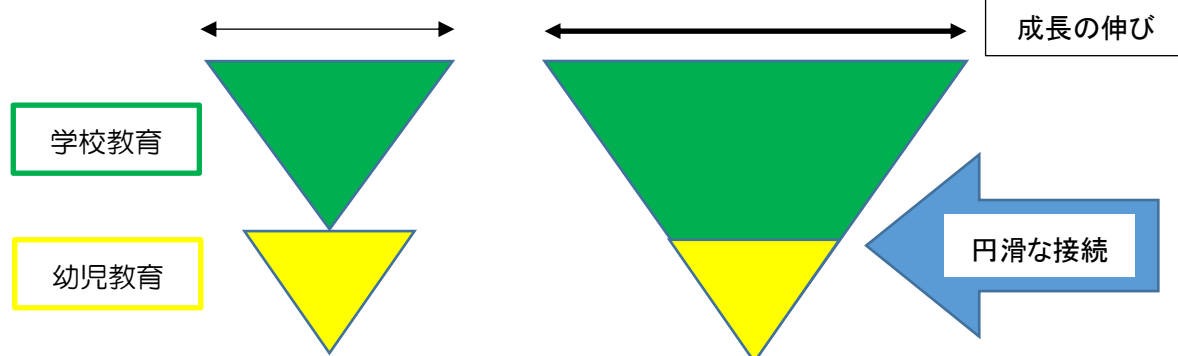
スタートカリキュラム（小）

◇「遊び」から「学び」への橋渡し

- 幼児教育では、遊びを中心として、主体的に様々な対象と関わりながら総合的に学んでいきます。遊びを通して育まれた様々な力を、小学校の教科等の学習につなげるよう、学びの工夫をしています。

◇1年生は、ゼロからのスタートではない！～連携から円滑な接続へ～

- 「円滑な接続」により成長の伸びが大きくなります。



- 今回作成したカリキュラムは、「生活をつなぐ」「人をつなぐ」「学びをつなぐ」の3つの視点から作成しました。また、「幼児期の終わりまで育ってほしい姿（10の姿）」の中で、特に「自立心」「協同性」「豊かな感性と表現」を幼児・児童に身に付けさせたい資質・能力として重点化しています。「自立心」と「協同性」は、中学校における「自律」「協働」へとつながるものと捉えています。各園・各小学校でカリキュラムを活用していきます。

オリジナルキャラクターの愛称決定！



「白石レイン坊」

南保育園・大平小学校

2月15日

交



流

白川保育園・白川小学校

2月28日

令和5年度のおもな予定

※各研修会・会議は、必要に応じて開催予定になっています。

期日	会議・研修	対象者
令和5年4月4日	スタートカリキュラム研修	小学1年生担任
令和5年4月7日	架け橋プログラム運営会議 5年度1回目 その後5回程度実施	運営委員・担当校長等
令和5年4月25日 令和5年11月下旬頃	小学校体験研修 2回実施予定	幼稚園・保育園担当者
令和5年5月26日	幼保小架け橋プログラム理解研修	市内全小学校教員 市内幼稚園・保育園職員
令和5年7月26日	市内中学校一斉公開研究会	市内小・中学校教員 市内幼稚園・保育園職員
令和5年7月下旬 ～8月上旬 令和6年1月下旬	保育体験研修 2回対象者を変えて実施予定	1回目 小学校教員 (各校2～3名程度) 2回目 小学校運営委員
令和5年8月下旬 (日程未定)	白石市幼保小架け橋推進協議会 (フォーラム)	市内小・中学校全教員 市内幼稚園・保育園全職員 県内参加希望教員

令和4年度は、組織の立ち上げから保育園体験研修、そして架け橋期のアプローチカリキュラム・スタートカリキュラム(案)の作成等を行ってきました。

令和5年度は、私立幼稚園・保育園そして市内中学校も加わり、合同研修のほかにカリキュラム(案)の実践・改善、ブロックごとの交流等を実施していきます。

7月下旬の市内中学校一斉公開研究会では、市内の幼保小中の全職員(保育園は一部)が中学校区ごとに「自立から自律に」に向けた子どもの姿について、遊び・学びの連続性を視点に研修します。